

平成29年1月17日（火） 知事記者会見

知事

皆さん、おはようございます。大変な大雪となりました。この冬は降り始めが遅かったんですけども、先週の水曜日から大雪となりまして、JRをはじめ交通機関などに大きな影響が出たところです。

また、県内各地で雪下ろしや除雪作業中の事故が相次いでおります。県内では、これまで20件の事故が発生しておりまして、先週12日には今季初めての死亡事故が、痛ましい事故が発生しております。お亡くなりになられた方のご家族に心からお悔やみを申し上げます。

県では11日以降、「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」を発表するなど、市町村と連携して、県民の皆さまへ事故防止を呼びかけてまいりました。改めて雪下ろしの際には、「命綱やヘルメットを着用する」、「はしごをしっかりと固定する」、「2人以上で作業を行う」、また「除雪機に雪が詰まったときは必ずエンジンを停止して、雪かき棒で雪を取り除く」など、くれぐれも事故の無いよう、安全第一で作業お願いいたします。

これからも雪の降る時期が続きますので、県民の皆さまには今後の気象情報などに留意をされまして、雪による被害に遭わないよう、十分注意をしていただきたいと思います。

報道機関の皆さまには、事故防止の呼びかけについてご協力をいただいておりますけれども、なお一層のご協力を、注意喚起のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは恒例となりました祭りやイベントのお知らせであります。

酒田市の松山城址館では、1月28日に「まつやま大寒能（だいかんのう）」が開催されます。江戸時代、寛文年間、1661年から1673年間に松山藩に伝えられ、明治以降は町方に謡い継がれてきた松山能が、狂言とともに厳かに上演されます。さらに振る舞い酒と納豆汁を演能者と観客で囲む「雪見の宴」も行われます。

最上町の赤倉温泉では、2月4日に「赤倉温泉お柴灯（さいとう）祭り」が開催されます。赤倉温泉の伝統行事として古くから行われているものでして、厳冬の中、下帯姿の若者が松明（たいまつ）を掲げて駆け回り、高さ7mから8mのピラミッド型のお柴灯に点火して、家内安全や商売繁盛を祈願します。皆さまぜひ、足をお運びいただきたいと思います。

私から1つ発表がございます。「やまがた雪フェスティバル」でございます。第2回目となる「やまがた雪フェスティバル」は、寒河江市、西村山郡4町、関係団体と県が連携して寒河江市の「最上川ふるさと総合公園」を会場に、来月3日から5日までの3日間開催するものであります。主に2月以降に県内各地で開催されるさまざまな「雪祭り」のオープニングイベントとして位置付けているものです。

フェスティバルの主な内容についてご紹介いたします。シンボル雪像としまして「スノー一文翔館」を制作するほか、雪遊び体験雪像や民間企業から制作していただく雪像も披露

されます。そのほか「雪と光のイルミネーション“シャイニング・リバー”」、メインステージでは若者に人気のあるMACO(マコ)さんなどのアーティストライブが行われます。

また「やまがた式イグルー」、灯ろうですね、を設定しますほか、スノーランドでは「かんじき」や「踏み俵」などの「雪国文化体験」、それから「トレジャーハンティング」、雪上宝探しですね、それや、スノーチューブなど雪遊びも楽しむことができます。センターハウスでは、月山和紙で絵はがきを作るワークショップや「わらぐつづくり」の実演販売なども行います。

さらに「雪見横町」では、県内各地の特色ある食、ご当地グルメなどの屋台が並びます。そのほか「冬花火の打ち上げ」、「県内外の雪祭りのPR」など盛りだくさんのイベントを企画しておりますので、県民の皆さまをはじめ、多くのお客様からお越しいただき、お楽しみいただきたいと思っております。

また、海外からも台湾、中国、香港、韓国、ASEAN などからお客さまが会場を訪れる予定となっております、通訳ボランティアが常駐して対応いたします。

3日の日、16時50分からオープニング式典を行い、「雪と光のイルミネーション“シャイニング・リバー”」の点灯でスタートとなります。報道機関の皆様からも積極的な情報発信をよろしくお願いたします。私からは以上です。

☆ 代表質問

記者

YTS佐藤です、よろしくお願いたします。今月13日に西村山郡区の県議会補選、補欠選挙が告示され、2人が立候補して選挙戦となりました。特定候補の応援について、知事は定例会見ですでに「考え中」とお話されましたが、選挙戦が始まった現時点で特定候補の支援についてどうされるのか、改めて考えを教えてくださいませんか。よろしくお願いたします。

知事

はい、現時点におきましても、特定の候補者を応援するかどうかということは今も「考え中」でございます。

記者

選挙戦中についてどうされるか、それともされないか、そこについていかがでしょう。

知事

はい、そのことも含めてですね、「考え中」ということでお願したいと思っております。情情的にはもう、間違いなくですね、私と協力して、地域を発展させたいとおっしゃっておられる方に、当選していただきたいというふうに思っております。やはり、地域創生とい

うことはやはり、連携、協力ということで、やはりしっかりと活動して地域の発展のためにお役に立ちたいということでもありますので、心情的には大いに、今すぐに駆けつけたいというようなことも思っておりますけれども、まず「考え中」ということでお願いしたいと思えます。

記者

改めてということになると思うんですが、どちらの候補者っていうのはもう心情的にと
いうことで、いわば周知の事実的なところもあるかと思うんですが、ここであえて応援に
行かれないという理由を改めて教えていただけますでしょうか。

知事

そうですね、できる限りですね、そうですね、前回は申し上げたわけでありましてけれど
も、住民の皆さんの思いというものがですね、お二人のその考えをよくお聞きになってや
はりお決めになっていただくというのが、まず大前提なのかなというふうに思っておりま
す。ただ本当に私の古里のことでもありますし、協力して発展させたいという方と、そう
でない方になるわけでありまして、心情的にはもう間違いないんですけれども、まず
目の前の公務を一生懸命やってというようなことを今は考えております。

記者

ありがとうございました。

☆ フリー質問

記者

朝日新聞の米澤です。地元大江の松田候補の陣営の方ですとですね、「9日に知事来る
(きたる)」と、「私も全力で応援します」というパンフレットが配られていまして、そ
こで松田さんと知事がちゃんとこう、握手をしている写真がパンフレットで、その9日に
撮ったという写真がパンフレットでね、配られています。9日に知事、事務所のほうに行
って、「為書き」も貼り付けた、提出されたということですがけれども、この写真をパンフ
レットのほうに活用するというについては知事、ご了解ということではよろしいんでし
ょうか。

知事

いえ、了解というようなことはございません。ただ「為書き」はですね、後援会で、長
年、地元の幹事長として活動してくださった恩人でもありますので、差し上げてありますし、
9日だったか10日だったかちょっと私もどちらかはっきりしないんですけども、自分の選
挙が終わって実家にご年始に行ったときに、帰りに立ち寄ったということではございました。

そのときに撮られた写真なのかなというふうに思いますが、それを何に使うとか、特に了解とかそういうことはございません。

記者

かぎかっこで「私も全力で応援します」というふうにパンフレットに載っているんですけども、そういうふうなことは何かおっしゃったのでしょうか。

知事

そうですね、その立ち寄ったときに、松田さんはいらっしゃらなかったんですけども、私の従来の支援者の方々がそこにいらっしゃるということで、立ち寄ったわけでありまして、私も、そのときいらっしゃらなかったけれども、お呼びしたようでありまして、いらっしゃって、それで「がんばってください」というようなことは申し上げたと思います。

記者

「全力で応援する」ということは言ってないということですか。

知事

その、具体的なその言葉まではちょっと覚えてないんですが、とにかく「全力でがんばってください」ということは申し上げたと思います。

記者

ちなみに「為書き」は別の候補者のほうには贈っていないのでしょうか。

知事

ええ、贈っていないと思います。

記者

それはどういうふうなことで、片方には贈って、片方には贈っていないというのはどういうふうな理由が。

知事

片方とおっしゃいますけれども、松田さんは本当に 8 年前からですね、ずっと地元で大変な、その、私の後援会の中心となって支援をしてくださった方なので、それは当然かなと思っております。

記者

はい。わかりました。

知事

はい。

記者

時事通信の梅崎です。よろしくお願いします。

1点、温泉施設で硫化水素の話なのですが、昨日、環境省のほうで初めて行なった調査の結果というものを公表したそうでして、2014年10月に北海道の足寄町のほうで起きた事故を受けてとのことだったのですが、山形県内にも6施設あったということで、まずおたずねしたいのが、こちらの施設、どの施設なのかということとですね、あと、県としての今後の対応を伺いたいののですが。

知事

はい。本県、温泉王国ということをやっております、どういうことなのかちょっと私も心配をしておりますけれども、環境省でお調べをされて、健康被害はないということでありまして、公表はされていないと聞いているところですが、担当いましたら、詳しいことをお願いしたいと思えます。

環境エネルギー部次長

はい。環境エネルギー部次長の永澤でございます。

今、知事からお話ありましたとおり、公表はいたしておりません。

報告した数値については、3施設の男女のお風呂ということで、6の浴室ということで報告させていただいています。

あくまでも環境省のほうの技術的助言の範囲ということでございまして、許可基準ではないということで環境省から言われていまして、営業上の事情もございまして、公表はしていないということでございます。

知事

いいですか。

記者

すいません、もう1点。県としての今後の対応、もし何かお考えであれば。

知事

はい。じゃあそれもあわせて答えてもらえますか。

環境エネルギー一部次長

はい。基準を超えている施設については、改善、あるいはその換気ですね、十分注意をして活用をお願いしたいということを申し上げていますし、ほかの施設についても、環境省の指導基準を守れるように注意喚起を促しております。

知事

現時点ではそういうお答えになるかと思えますけれども、やっぱり 35 市町村すべてに温泉が湧いている温泉王国だというふうに私も常々PR しておりますので、今後ですね、どういった、その、何ができるのか、また県としても考えていきたいというふうに思います。

記者

すいません、YBC の熊坂です。

すいません、2 点伺いたいですけれども、まず 1 点目がですね、ちょっと今朝の新聞でも報じられていたかと思うのですが、山形大学が東北・北海道で初めて導入する次世代型重粒子線がんの治療装置について、県内企業の技術が導入される方針であることが県から発表されたというふうなことが報じられていたのですが、このことについての内容の説明をしていただきたいのと、あと、知事としてはどのように受け止めていらっしゃるかお伺いできますでしょうか。

知事

はい。受け止めのほうがちょっと先になりますけれども、非常に良い方向だなというふうに思っているところです。

やはり県内企業のその「ものづくり」の力というのは大きなものがありますので、大いにですね、連携して次世代型の治療に役立つようにして行ってほしいなというふうに思いました。

それで、その工業技術センターということでもありますので、ちょっとまだそのことについて私のところまでお話が来ておりませんが、今、担当、来ておりますでしょうか。

担当が来ていなくてですね、まだちょっと。私は報道でそれを知りまして、非常に良いことをしているというふうに思いましたので、しっかり聞いてみたいと思います。

記者

わかりました。ありがとうございます。

あと、もう 1 点なのですが、すいません、これもちょっと一部で報じられていることなのですが、東京電力福島第一原発の事故で発生した放射性物質を含む指定廃棄物のうち、東根にある民間の事業所が保管していた廃棄物の濃度が国の基準を下回ったとし

て、環境省が指定を解除する通知を出していたということが報じられていたのですが、これについて知事は何か把握されていますか。

知事

その前のね、寒河江のというのはしっかりと把握をしておりましたけども、東根の民間のというのは、しっかりと把握はしていなかったかと思います。今日、担当、来ておりますか。

環境エネルギー部次長

環境省から県のほうに通知ございまして、県内で残っていましたが東根市の1件、0.2トンですけれども、1月13日付で指定解除された旨、通知がございました。

知事

それでよろしいでしょうか。

記者

わかりました。はい。これで、寒河江市も含めて県内のすべてのその指定廃棄物が解除されたということによろしかったでしょうか。

環境エネルギー部次長

はい。県内の指定廃棄物はすべて解除ということになりました。

知事

すべてそれで解除ということなので。はい。

記者

はい、わかりました。ありがとうございます。

知事

はい。

記者

NHKの池川です。よろしくお願いします。

2点お伺いしたいのですが、最初、雪の被害の話なのですが、昨日、被害まとめとかですね、中間とか、第一報的なものがきていると思うのですが、雪の被害は今後まだ広がりそうなのかどうか、ちょっとまだ状況よく把握できていないのか、今の

状況を教えていただけますでしょうか。

知事

はい。雪の被害についてですね、私のところに上がってきておりますけれども、農業の被害というようなことはですね、ちょっとまだ現地に行かないとわからないというようなこともありまして、調査中のものもあると聞いているところです。

かなりドカ雪のような降り方でしたので、私も例えば樹園地がどうなっているかという、あとパイプハウスとかですね、倒壊したハウスとかも聞いておりますけれども、これからちょっと広がるのではないかと大変懸念をしているところです。

記者

これは目下、調査を今、進められていらっしゃるという。

知事

ええ、調査中ということであります。

記者

具体的にどんな作物で、どんな被害、というところまではまだ。

知事

そうですね。例年ですと、やはりサクランボの木でありましたり、リンゴの木でありましたり、果樹の樹園地で被害が発生しております。

それからパイプハウスということで、倒壊もありますので、山のほうにあるものと、山のほうまで行かないとわからないというようなこともありますので、やはり調査中ということで数日かかるのかなと思っています。

記者

これ、被害が今後ですね、把握されながらということになると思うのですけれども、県として何か対応というかですね、支援というか、今のところ考えられていらっしゃるものはありますでしょうか。

知事

そうですね、例年やはり農林部のほうでどういった支援をできるのかということを考えていますので、今年もまたその被害状況を見て考えていきたいというふうに思っています。農林部、今日、来ていますか。今わかっていることありましたら、じゃあ、はい。

農林水産部次長

農林水産部次長の駒林でございます。

雪の被害でありますけれども、今知事が申し上げたとおりですね、今、継続して調査をしているところでございますが、やはりそのパイプハウスですね、ハウスの被害がやっぱり市町村のほうで出ているというふうな報告を受けているところでございますし、また、ちょっと樹園地までなかなか入っていけないというような状況でありますので、枝折れとかですね、果樹の枝折れとかそういったものがですね、ちょっと心配されるところでございます。

いずれにしても今調査中ということでございますので、まとも次第ですね、お知らせをしたいというふうに思います。

また、そういったその被害の状況をしっかりと捉えましてですね、どういった支援ができるかということについても検討していきたいというふうに思っているところでございます。

知事

よろしいでしょうか。はい。

記者

もう1点、これもちょっと農林水産関係なのですが、山形112号の名称の募集、今週末、日曜日までだと思うのですけれども、今のところ、年末年始も挟んでいる関係でですね、応募の状況はどうなっているのかということと、最後、この1週間だと思うのですけれども、県としてもう一度何かPRすることがありましたら、教えていただけますでしょうか。

知事

そうですね、はい。県内の投票ということで、私も楽しみにしているところですが、まだ内容というところが上がってきておりませんので、農林部、また、今言えることだけ、できる限り話してもらいたいと思います。

農林水産部次長

山形112号の件でありますけれども、1月22日締切りということではありますので、今、最終的にですね、いろんなイベントをやっているところでございます。市町村などでもやっているところありますので、そういったイベント会場に出ましてですね、その投票を呼び掛けているというふうな状況でございます。

出足がですね、ちょっと、あまり良くなかったというようなこともありますけれども、今、最終盤に向けてですね、そういった投票を呼び掛けるということですね、一所懸命やっているところでございます。以上でございます。

記者

では、つや姫との比較という、どのような状況なのかだけ教えていただけますか。

農林水産部次長

正確な集計はちょっと今持ち合わせておりませんが、つや姫の時はですね、かなり票数が入ったというふうには記憶しておりますけれども、そこまでには行かないかもしれませんが、なんとか県民投票がですね、いっぱい集まるようにですね、努力していきたいというふうに思っているところでございます。

知事

よろしいでしょうか。はい。

記者

河北新報の宮崎と申します。よろしく申し上げます。

県議補選の件に話戻るのですけれども、実質的にいろいろな見方はあると思うのですけれども、国会議員のですね、民進党の近藤洋介さんと、自民党の鈴木さんが張り付いて、実質的には総選挙の前哨戦みたいだというような見方もあるのですけれども、実質的に、知事がマイクは握らないとしてもですね、一方の松田さんというか、民進系に近い方を応援しているということで、そういったことに対して自民党の反応というのか、議会対策が困難になるとか、そういった心配とかって知事にはありませんかね。

知事

そうですね。政党対政党というようなね、そういう構図になっているのか、前哨戦と言われておりますけれども、ただ私の場合はですね、そういうことではなくて、純粋に、その西村山郡という地域でですね、従来から私の支援活動を熱心に行ってきた、松田さんという方が立候補したということでありますので、そういった方が、その方はもう、「協力をしながら西郡の発展のために尽くしたい」とおっしゃっておられる。その1点を私は受け止めているところです。ですから、その政党対政党というような構図にね、誤解されたくないと言いますか、私が動く場合ですね。そういうやはり、今記者さんがおっしゃったような、その懸念はあります。

ただ、35市町村ありますけれども、このたびのそのうち4つの町で行われる選挙でですね、それは、私が本当に生まれ育ったふるさとだということが1つありますね。そして、4つの町のうちの3つの議長さん方が松田さんを応援していらっしゃるということも、聞いているところでありますので、政党ということに関係なくですね、県民党というふうに申し上げてきましたし、その4つのうちの3つの町の議長さん方が応援している無所属の松田さんで

ありますので、ぜひ当選していただければなあ、というふうに思っているところです。

記者

そこまでですね、松田さんを応援しながら、応援したいと言いながらですね、マイクと
いうか、実質的に選挙戦に参入できないというのは、やっぱり議会に対する対応に遠慮し
ているのかですね、そういったところがあるのではないですか。実質的には。

知事

そうですね。それがすべてということではないのですけれども、いろいろなことがあつ
て、やはり考え中というふうに申し上げているところです。それもその中には入っている
と思います。

記者

他にどんなものがありますか。

知事

いろいろありますので。

記者

1つ、2つ。たとえば。

知事

たとえば、今おっしゃったことが入っているということで。

記者

どれ位の割合なんですか。どれ位のウェイトなんですか。

知事

割合ですね。ちょっと割合までは考えておりませんですね。はい。

記者

おはようございます。荘内日報の上林です。

ちょっと大雪のことでお聞きしたいのですけれども、また週末天気崩れそうだという予
報があるのですけれども、県として対策本部なり、そういう設置予定は今のところはない
のでしょうか、というのが第1点。

第2点、ちょっとくだらないかもしれませんが、全国で大蔵村の肘折が全国で2番

目の積雪だとしょっちゅうテレビに出ているのですがけれども、長野県の野沢菜は、野沢温泉という地名から出ているのです。肘折の観測場所わかりませんが、肘折温泉ではいけないのでしょうか。大蔵村肘折というだけではなくて。

知事

ああ、名称ですね。

記者

長野県の場合、名称が野沢温泉という名称なんです。観測地点が。

知事

はい。

記者

せっかく全国に名を売るチャンスなので、そういった名称にはならないのかどうか、これは气象台の関係もあるのでしょうか。

それから、3つ目。知事個人としてお聞きしたいのですが、雪国の山形県山形市として、除雪上手いと思いますか。鶴岡市でも日中やります。酒田もやります。夜もやります。幹線もやります。脇道も。うちの道路は広いのに何もやっていない、1回も、この3日間。

知事

3日間ですか。

記者

はい。

知事

おお。

記者

バイパスだけは大了なものですけれども、直轄のところは。その他、これ上手だと思っていますか。

県として、そういう除雪本部なり、何なり、これは全県の。山形市のことには限らないわけですが。

その点不思議に思わない山形市民がすごく不思議なので、その点知事のお考え、ちよっ

と感想を聞きたいのですけれども。

知事

はい。まず、1点目からまいります。

対策本部でありますけれども、これには1つの規定がございまして、4つの総合支庁ありますが、そのうちの2つ以上が対策本部を作った場合という、あ、3つ？失礼しました。そのうちの3つ以上が対策本部を作った場合に、県も対策本部を作るというようなことがございます。そういう規定でまいりますと、今は対策本部を作るということにはなっておりません。

でも今後、また雪が降って対策本部が増えますと、それは作るということに向かっていきますので。まず規定ということが1つあります。という事情です。

2つ目が、肘折ですよ。

記者

別に答えなくてもいいのですけれども。

知事

本当に、そういうふうに、今記者さんのお話を聞いて非常にいいアイデアだなと、いや本当にそういうふうにしてもらえるものなら、してもらったほうがいいですね、というふうには実は今非常に思ったところであります。「肘折温泉」と付けたら。大変いいアイデアをありがとうございます。ちょっと検討させてもらえればと思います。

観測地点ってあれば、气象台ということでもありますので、はい。いろいろあるかとは思いますが、肘折、毎年出ますからね。ということで、ありがとうございます。

3つ目の、その雪掃き上手だと思うか、ということでもありますけれども。最上に行きますと、「山形、下手だよ」って言われます。他の地域からそのように思われている、上手な地域、最上のほうは上手だというふうには。この間新庄に行きましたけれども、やはり上手だなというふうには思ってまいりました。何が違うのか、ちょっと担当に聞いてみたいと思います。

記者

本部には、3つの基準があるというふうにお聞きしました。20件の事故が起きて1人が死亡して4人が重症かな。そういった中で遅いのではないのかなというふうには思うのですけれども。物事が起きてから対策本部という考え方なのか。起きる前の対策本部なのか。その考え方の違いもあるのでしょうかけれども、ちょっと、20件発生して1人死亡して4人が重症の中で、たとえば。それから、家屋が5棟ですか。だから、それに果樹と園芸を合わせれば、だから予報を見て対策を立てるのが当たり前であって、被害が起きてから対策を立て

るという考え方がちょっと違うのではないかというふうに考えるのですけれども。

知事

市町村が35ありまして、その市町村の対策本部ということを見ながらですね、各4つの総合支庁で対策本部を考えます。もちろん、対策本部までいかなくて、対策会議というものを立ち上げているところもありますので、やはり本部と対策会議はちょっとレベルが違うのですけれども、記者さんがおっしゃるように、こういう事態になっていますので、対策会議を立ち上げている総合支庁もありますので、全く何もしていないということではありません。

できる限りしっかりと対応していきたいというふうに思っています。

記者

毎日新聞の二村と申します。よろしく申し上げます。

先日ですね、J2のモンテディオ山形の民間の検討委員会がですね、2021年のシーズンまでには新スタジアムも、という目標を掲げていましたけれども、以前記者会見でもですね、知事は、県のほうとしては、支援を申し上げる、少し距離を置くというか、そういうお考えを示されたと思うのですが、今回具体的に2021年までというような目標も決まってですね、何か県のスタンスには変わりはあるのかというのとですね、以前もJ1定着が新スタジアムの、ということをおっしゃっていましたが、それに関してお考えに変化というのは何かありますでしょうか。

知事

はい。まず最初に、スタンスそのものはですね、特には変わっておりません。

私も報道で見て、「おっ」と思ったのですけれども、ただあそこには書かれていたことは、「県には何もまだ話していないのだけれども」という事前のことばもあったようだけれども、そういうことでありまして、民間のレベルでですね、今そういった話、検討が進められているということを承知しております。特に今、県として、申し上げることはないところですよ。はい。